

4段階評価	4：期待以上	3：ほぼ期待通り	2：やや期待を下回る	1：改善を要する
-------	--------	----------	------------	----------

【学校経営ビジョン】

「五気をもつ子ども」の具体化を図り、子ども・保護者から信頼される学校、「風通しのよい職場環境づくり」の取組による笑顔あふれる職場環境の学校、「PTA・学校運営協議会等との連携」による地域に貢献する学校を目指し、全教育活動を「工夫・徹底・継続」の視点から見直し、東小としての特色ある学校づくりを推進する。

重点目標	主な達成手段	結果の考察・分析・改善策等	自己評価	関係者評価	関係者意見
知育 基礎・基本の 確実な定着と 学力の向上	1 ICTの効果的な活用を図り、単元テストにおいて、学級の平均点が期待平均点以上となるよう、指導の徹底と個別指導の充実を図る。	1 タブレットの有効活用を行い、AIドリルの活用などによって、児童の学習が個別最適な学習となりつつある。ただ、話し合い活動に関しては十分とは言えず、今後、深い学びのための話し合い活動を充実させ、協働的な学習を目指したい。	3.2	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの活用には賛否両論あるようです。1年生はまだ早いという意見があり要検討と思います。 ・三枚小中一貫の研修会の積極参加、大事なことだと思います。 ・コロナ禍の中読み聞かせの活動が年2回程度の実施となってきているため、少しでも読書の向上に協力できない状況が見られた。 ・ICT化が進んでいることがよく分かった。 ・図書貸出冊数の減少は、コロナ禍で読書以外の時間がとれるようになったのではないかと。 ・時代に合った指導で子供たちが主役の授業に変化しつつある授業を見ることができた。 ・タブレット活用で視力低下がみられる。目の体操など予防が必要。 ・タブレットがドリル学習等の個別学習では積極的に活用されている。調べたことや考えを発表したり話し合ったりする協働的な学習にも活用できるようにする。 ・小さいころからタブレットやPCなどICTに触れることは素晴らしいことだと思う。ただし、扱う児童たち以上に先生方や親の知識向上を図る必要がある。
	2 妻ヶ丘地区小中一貫教育学力向上に係る取組を通して、児童の学力向上を目指した授業実践や研修機会の確保を図る。	2 小中一貫の研修会に全職員で参加し、妻ヶ丘中学校区で決定した共通実践事項に沿ったタブレット活用を行ってきた。今後も3校でより効果的な活用法を探っていききたい。	3.1	3.4	
	3 図書館サポーターとの連携で児童一人一人の図書貸出数を増やし、合わせて読書の質を向上させることで、読書力の向上を図る。	3 12月末での貸出冊数は35,465冊と昨年度よりも減ったが、昼休み時間短縮の影響と考えられる。一定の読書量は確保できており、今後、様々なジャンルの本を読んだり、読んだ本の感想を交流したりするなどして、読書の質を向上させていきたい。	3.1	3.4	
徳育 基本的な生活 習慣の定着と豊 かな心の育成	1 積極的な生徒指導を展開し、重点指導事項について具体的指導を徹底することで、「挨拶(会釈)・返事・履物並べ・立腰」の達成率80%以上を目指す。	1 学校内での返事・あいさつ・会釈は確実に良くなってきていることを感じている。しかし、地域でのあいさつ等は今一歩という声も聞かれる。日常生活全般で基本的な生活習慣の定着を目指したい。	3.0	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶についてはとても良いと思います。コロナ禍が続く中、少しずつ笑顔が戻ってきていると思いますので、学級での活動が活発になるといいかなと思います。 ・コロナ禍でも学校が楽しいとの回答が多いことに安心した。先生方の努力と工夫のたまものである。 ・登校のとき、5,6年のリーダーが低学年の面倒をよく見ている。 ・出前授業・体験学習の日、保護者も参加できれば子供と共有の話題ができる。 ・地域でのあいさつが不十分な児童が見受けられる。コロナ禍の中ですが、せめて黙礼でもと思います。その中で、3学期初日見守りの中1年生の女児が「明けましておめでとうございます。」とあいさつしました。感激、素晴らしいことです。 ・学校外でも挨拶や遊びに来た後お礼の一言を言って帰る姿を見て、素晴らしいと感じました。
	2 道徳・学級活動における話し合い活動や体験活動の充実を図ることで、「学校が楽しい」と回答する児童の達成率90%以上を目指す。	2 学校が楽しいと回答した児童は88%で、昨年度とあまり変わらない。今後も道徳・学級活動における話し合い活動や体験活動を充実させ、児童の自己肯定感を高めていきたい。	3.3	3.6	
	3 学校安全諸計画に基づく避難訓練や安全指導を実施し、「自分の命は自分で守る」児童の育成を図る。	3 3密を避ける形で、できる範囲で避難訓練等を実施することができた。今後は「自分で守る」ために子どもたちだけで行動する訓練も実施したい。	3.3	3.0	
体育 基礎体力の向 上と健康的な生 活習慣の定着	1 昨年度の体力テストの結果を踏まえ、A判定の児童を5%以上、D、E判定の児童をそれぞれ25%、10%以下になるよう、体育授業の充実をはじめ体力向上プランに沿った具体的な取組を徹底する。	1 今年度も途中から昼休み時間の短縮、外遊びの自粛を行ってきた。遊びを通じた体力づくりが進まなかった。体育の時間には、体育振興指導教員を招聘したりして、体育の授業改善を行い、運動量を確保し、体力向上を目指した取組も行った。今後は身近な活動の中に体力向上につながる動きを取り入れていきたい。	3.0	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・参観日などの制限が少しずつ前の状態に戻りつつある中で、子どもたちの楽しく過ごしていることがとても良いことだと思います。 ・早寝・早起き・朝ごはんは家庭との連携が必要。学校だけでは限界があると思う。 ・体育集会、子どもたちがプログラムに沿って積極的に取り組み進行にあっていた。 ・生活習慣作りは今日一日の積み重ね、子どもたちに食育の大切さを教え、お手伝いを決め、手伝ってもらう習慣をつける。 ・コロナ禍の中、体力向上は大変なことと思います。学校だけではなく家庭との更なる連携の必要性を痛感します。
	2 健康に関する基本的な生活習慣の形成を自指した常時指導を徹底することで、「早寝・早起き・朝ごはん」の達成率85%以上を目指す。	2 目標達成は難しかった。特に「早寝」ができない児童が増えてきている気がする。家庭でのメディアとの関わり方を指導し、家庭と協力連携しながら健康に関する基本的な生活習慣の定着を目指したい。	3.0	3.0	
	3 「弁当の日」の工夫・改善と、家庭をはじめ関係機関と連携した「食に関する指導」を計画的に推進する。	3 弁当の日や親子クッキングの取組については、実践できている家庭が多かった。「食に関する指導」の充実のために栄養教諭の招聘等も考えていきたい。	3.2	3.2	
ふるさと教育 家庭・地域との 連携と開かれた 学校づくり	1 学校だよりの定期的な発行とHPの更新により、保護者や地域住民に対して適切な情報発信を行い、本校の教育活動への理解を深める。	1 定期的に学校だよりを発信し、学校HPの更新も行事ごとに行うことで、保護者や地域への情報発信はできた。今後は保護者・地域からの意見を反映させていく手段等を考えていきたい。	3.3	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・学校づくりについてはとても感心させられています。先生方の努力と地域の方々の協力が一体化してきていることを感じます。 ・民児協の定例会で学校便りを毎月配付していただき、開かれた東小情報を知ることができ、子どもとのコミュニケーションが多くなりありがとうございます。学校訪問のとき先生方の対応も親近感があり楽しかったです。 ・キッズワークショップでの児童の関心が積極的であり、素晴らしい企画であったと思います。児童が将来の職業併せて地域の職場について関心を持つことは大切なことだと思います。 ・今年は学校HPも頻りに更新されていて、子どもたちの普段の様子が学校に行かなくても分かるのでよいと思う。
	2 様々な教育活動において、地域人材・地域素材を積極的に活用することで、地域との連携を深める。	2 キッズワークショップや各学年での地域人材の活用など、コロナ禍の中、積極的な取組ができた。今後は児童に「妻ヶ丘地域の一員」という意識を育むような仕掛けを考えていきたい。	3.2	3.4	
	3 学校運営協議会をはじめ、まちづくり協議会等との連携と活用を通して、地域とともにある東小の実現を目指す。	3 できるだけ年間計画通りの開催を心掛けた。会の中ではできるだけ多くの意見をいただくよう配慮し、実施できなかったときにも資料を配付し、御意見を集約して学校運営に生かす努力をしてきた。			